

# 国家行政の歴史を創る



総務省行政管理局管理官  
併任 内閣官房内閣人事局内閣参事官

**栗原 淳** Atsushi KURIBARA

- 平成 8年 4月 総務庁採用  
行政管理局企画調整課
- 平成 9年 7月 同 長官官房総務課
- 平成 11年 7月 総理府大臣官房管理室公益法人担当主査
- 平成 13年 1月 総務省大臣官房管理室公益法人行政推進室  
公益法人担当主査
- 平成 13年 7月 同 大臣官房企画課企画調査第一係長
- 平成 15年 1月 経済産業省商務情報政策局情報通信機器課課長補佐
- 平成 16年 7月 内閣官房行政改革推進事務局 参事官補佐
- 平成 18年 6月 総務省行政評価局上席評価監視調査官
- 平成 19年 4月 内閣官房公務員制度改革事務局 参事官補佐
- 平成 19年 7月 総務省行政評価局年金記録確認中央第三者委員会  
事務局上席調査員
- 平成 21年 7月 同 行政管理局副管理官(経済産業省・環境省担当)
- 平成 22年 8月 同 行政管理局副管理官(農林水産省担当)
- 平成 23年 1月 総務大臣秘書官事務取扱
- 平成 23年12月 内閣府本府地域主権戦略室参事官補佐
- 平成 24年 8月 総務省大臣官房秘書課課長補佐(人事・採用担当)
- 平成 25年 6月 同 行政管理局調査官
- 平成 26年 1月 (特定)個人情報保護委員会事務局総務課企画官(総括担当)
- 平成 29年 7月 総務省行政管理局管理官(独立行政法人評価総括担当)
- 平成 31年 1月 内閣官房内閣人事局内閣参事官  
(宮内庁、文部科学省、厚生労働省担当)



この原稿を秘書課に提出した直後に内閣官房内閣人事局に異動しました。  
内閣人事局の機構・定員審査業務については、官庁訪問の際にお話ししたいと思います。

## 若手職員の声



総務省行政管理局管理官  
(独立行政法人評価総括担当)付

**小池 紗恵子**  
(平成30年度入省)

私は、栗原管理官のあたたかいご指導のもと、課室のとりま  
とめ業務や審議会の運営の他、独立行政法人の調査業務を  
行っています。

調査業務では、独立行政法人を行政の課題解決のために役  
立てる方策として、法人がSociety5.0を支えるための技術を社  
会へ実装している例や地域活性化につなげている例を収集し、  
他法人への参考となり得る事例について審議会の場で紹介し  
ています。自らが法人や地方自治体に赴き現場の声を聞くとと  
もに、資料をゼロからつくることに、やりがいを感じています。

今自分がやっていることの意義を考え、より効率的に多くの  
成果を生み出すための方策を考えること。これは日々の業務に  
おいても、制度設計においても重要であると思います。行政の  
在り方を考える中で、先輩方から多くのことを吸収し、行政官と  
して成長していきたいです。



秘書課時代に採用した後輩の結婚式でスピーチした直後(とても緊張しましたが良い思い出です)

## 国家行政の在り方を考える仕事

学生時代から国の姿の移り変わりを追う日本史が好きだったこと  
もあり、一貫して国の行政の在り方はどうあるべきか、行政組織をど  
うように構築し、そこで働く公務員とはどうあるべきかに関心を持ち  
続けていました。以来、20年以上が経過しましたが、その間、行政組  
織を大きく変革するための法律の策定(行政改革推進法)、行政機  
関の組織・定員の査定業務、新たな組織の立ち上げ(個人情報保護  
委員会)といった国としてより望ましい組織の在り方を現実にする仕  
事に携わりました。

この国をより良い国にしていくためにその基盤となる国家行政を  
時代にあったものにしていくこと、行政のパフォーマンスを最大限発  
揮してしっかりとこの国の将来に貢献していくこと、そのためにどの  
ように組織をマネジメントしていくべきか、そこで働く優秀な人材を  
いかに確保し、生産性を向上させていくのか。入省前から持っていた  
こうした問題意識とそれに対する自分なりの答えを様々な角度から

考え、「尊敬できる人」とともに実践し続けることができたのではない  
かと、振り返って改めて実感します。

## 「霞ヶ関」でしかできない仕事 ～国家行政の姿を変えていくこと～

国家行政の在り方を考える仕事とは、時代の変化やニーズに応じ  
て、国の統治機構の姿を変えていくことであり、国の歴史の一部を  
創っていく仕事です。時代の変化の中で、国の統治機構はどうあるべ  
きか、そのための政策手段として、行政組織制度・運営・公務員制度  
をどのように変えていき、時代に合った望ましい姿にしていくのか、と  
いうことを政府の中心で考えていくこと。これこそがまさに「霞ヶ関」  
でしかできない仕事であり、大きな魅力です。

例えば、以前は「官から民へ」の流れの中で行政を簡素で効率的  
にすることが求められており、行政組織の統廃合や民営化といった  
ことに政官民一体となって、時には大きな政治的決断を踏まえて大  
きく改革してきました。また、現在は、人口減少社会における行政

サービスの持続可能性や、個人情報の保護とビッグデータの利活用  
などといった新たな行政課題に対応するために、必要な組織の新設  
や既存の行政組織の生産性をどのように向上させるのかといったこ  
とに取り組んでいます。

## 総務省の魅力～ 「尊敬できる人たち」ばかりで楽しいですよ

この仕事のもう一つの大きな魅力は「尊敬できる人たち」との出会  
いです。例えば、資料を見ずに論理的な思考や議論ができる人、一  
言説明しただけでも全てを理解して的確な判断をする人、直前の事  
象にとらわれず国全体の視点で物事を語る人など。こうした能力や  
幅広い視野を持つ優秀な上司・同僚・部下、さらには各界でご活躍  
されている省外の有識者の方々とともに仕事をするを通じ、日々  
成長を実感できることも魅力の一つだと思います。

皆様方が、総務省の一員となって、この国の歴史と一緒に創れる  
ことを楽しみにしています。

## PROJECT

### 独立行政法人 マネジメント

行政管理局では、国の行政機関(1府12省。約30万人)の  
マネジメントを担う内閣人事局と並んで、国の行政の一部であ  
る独立行政法人(87法人・約17万人)のマネジメントを担当し  
ています。具体的には、人口減少下における様々な課題解決の  
みならず、新たな価値を創造するオープンイノベーションの推  
進のために、独立行政法人の専門性・人材面での強みをどのよ  
うに活用し、どうマネジメントしていくべきか、有識者の方々との  
重厚な議論を日々楽しんでいます。独立行政法人評価制度  
委員会における調査審議では、具体的に独立行政法人がいろ  
いろな政策課題に寄与している優良事例を調査・紹介し、法人  
職員のさらなる意欲や創意工夫を引き出すとともに、他の法人  
への横展開を目指しています。調査業務は、国の行政機関のマ  
ネジメント業務の知見を得ることができるよう、入省1年目の  
職員にも担当してもらっています。